



第1回 健康講座

6月24日(金)14時~15時、大津市民病院9階大会議室にて平成28年度第1回大津市民病院大学健康講座を開催いたしました。

講師は心臓血管外科医長 藤原 克次医師、テーマは「下肢静脈瘤の症状と治療について」で、参加者は院内5名院外105名の計110名と、とても盛況でした。うち当日参加も約20名あり、市民の皆さんの下肢静脈瘤に対する関心の高さがうかがえました。

内容は、下肢静脈の流れから始まり、下肢静脈瘤の症状・検査、弾性ストッキングの着用や最新の治療であるレーザーによる血管内焼灼術を含めた手術療法などの治療、日常生活上の注意点まで、実際の手術の写真などを用いながらのとても具体的でわかりやすい講義でした。

終了後の参加者アンケートでも、「実際の写真がたくさんあり、わかりやすかった」「症状など具体的で参考になった」「自身に静脈瘤があり、気になっていたので今回来てよかった」などの意見があり、とても好評でした。



●次回の開催予定●

日時：7月28日(木) 14時~15時
場所：大津市民病院 9階大会議室
受講料：無料
テーマ：「訪問看護の実際」
講師：訪問看護認定看護師 和田 幸子

こんな看護をしています - ICU -

重症患者の救命だけでなく社会復帰をめざして

ICU 看護科長 西村 由香



当院のICUはより高い医療水準が要求される特定集中治療室管理料1の施設基準を取得しており、年間延べ800症例の入室があります。2:1の看護体制で、集中ケア認定看護師1名を含む24名の看護師で業務しています。毎朝、多くのメディカルスタッフと合同カンファレンスを行い治療方針の統一とチーム医療を実践しています。その中で私達看護師は安全で安楽な看護を提供するため、的確なフィジカルアセスメント能力や判断・処理能力などのスキルアップを目指し、日々自己研鑽に励んでいます。

近年、クリティカルケア領域においてはICU-AW(Intensive Care Unit Acquired Weakness: ICUでおこった脆弱性)という概念が提唱されています。以前なら亡くなったと思われる重症敗血症であっても救命できるケースが増えました。その一方、それら重症患者の全身が衰弱し認知障害・神経機能・筋障害などが長期にわたって残るケースもあります。半数以上はそれなりに回復するのですが永続的な障害を残すことも少なくありません。従来のIntensive Careに加えて早期からリハビリテーションを実施することでそれらの病態を予防する可能性があると示唆されています。リハビリテーションを有効にすすめるためには、たとえ挿管患者でもできる限り鎮静度を下げ本人の能動的な動きを導かなければなりません。そのため合同カンファレンスでは日中の鎮静管理の目標・患者にどれぐらい負荷をかけられるかを理学療法士と確認し、早期リハビリ介入を実践しています。理学療法士によるリハビリがない日は看護師が事前に理学療法士から指導を受けた方法でリハビリを実践しています。また、ICU入室患者の多くがせん妄やPTSDをおこし、それらの影響が年単位で残るとされます。そして患者やそのご家族のその後の生涯において大きく影響を与えられています。ソーシャルワーカーと連携を図り退院後の患者のQOL向上に向けて入室直後より早期に取り組むことが必要です。このように他職種と連携を図りながら「とりえず命が助かれればよい」ではなく「地域へ患者を返す」ことを目標に取り組んでいます。

